平成22年度
琉球大学大学院法務研究科入学試験問題

小論文

平成２１年12月5日（土）　10：00～11:30

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この小冊子を開いてはいけません。
2. 試験開始後、問題用紙（5頁）、解答用紙（1枚）および下書き用紙（1枚）が揃っていることを確認してください。
3. 解答用紙のすべてに琉球大学大学院法務研究科の受験番号を記入してください。氏名は記入しないでください。
4. 解答は必ず解答用紙の指定された個所に記入してください。下書き用紙と取り違えないように注意してください。
5. 解答にはボールペンまたは鉛筆を使用してください。問題の内容に関する質問には応じません。
6. 試験終了後、問題用紙および下書き用紙は持ち帰ってください。

平成22年度琉球大学法科大学院入学試験（小論文）の問題と講評

【問題】

以下の二つのテキスト（Ⅰ・Ⅱ）を読み、考えられる論点を指摘したうえで、それら論点について、あなた自身の考えを論述してください（800字以上）。

（テキスト（Ⅰ・Ⅱ）については、著作権の関係で、当Ｗｅｂページには掲載しておりません。）

【講評】

本問では、二つの異なるテクスト（課題文Ⅰ／Ⅱ）から主題を読みとりながら、解答者自身が問題を析出し、テクストの主題との関連で適切に立論できるかどうかを問うている。具体的には、①文章を正確に読解する能力、②解釈を通して問題を「発見／創造」する能力、③（これら①②を踏まえて）自身の見解を構築し、それを論理的に説明する能力という観点から評価した。各自の価値判断が問われる法曹の世界では、これらの能力が法曹を目指す人に必要と考え、それを評価しようという趣旨だと理解していただきたい。

課題文Ⅰ／Ⅱはいずれも、「自己決定」がキーワードとなっており、本文中では法・政治哲学上の知見も論じられているが、各自にこうした専門知識がないと読めないというわけではないし、知識の有無を評価するわけでもないことはいうまでもない。与えられた文章に関する基本的な読解力だけが求められている。しかし、「自己決定」という言葉がすでに相当程度で一般化されているからだろうか、答案のなかには課題文＝テクストから離れて、個人の経験に基づいて「自己決定」に関する持論を展開している（だけの）ように読めるものが多く見受けられた。これはテクストの軽視であり、出題意図の没却だといえよう。まずはテクストが、何を、どのようなコンテクストで論じているのかを読みとること（読みとろうとする姿勢）が必要である。したがって、二つのテクストのメッセージについて、解答者のテクスト解釈の工夫（テキストが提起しているテーマを示す）が読みとれないような答案は総じて低い評価になっている。あたりまえだが、いかなる問題であっても課題文を正確に読解することは、解答する上で、第一の基本であることを確認しておきたい。

次に、テクスト解釈を踏まえた上で、解答者自身が明確に問題を設定し、それについて自身の見解を説得力をもって説明しなければならない。この「問題提起」部分については、ある程度はテクストに拘束されるだろうが、一義的な「正解」があるというわけではない。テクスト内容を要約・再構成する、要所を引用するなど、自己の理解を明示しながら、何を問題として論じるのかは、解答者の裁量の範囲だと考えてもらいたい。ただし、今回の出題内容のように、テクストのなかに対立している見解が含まれているような場合には、その対立は何に起因しているのか、それぞれの見解はどこが、どのような意味で異なるのかを理解し、対立構造を明確にするというプロセスも必要不可欠であろう。最終的に、テクスト解釈の結果として、自身の見解をどのように展開するのかについては、「ユニークさ」があればなお望ましいだろうが、むしろ論理的な論述作法がまずは問われていることに留意してもらいたい。テクストについて、解答者は肯定/否定のいずれに捉えているのか、そしてその根拠は何かなどを論理的に説明しながら、さらには自身と立場の異なる見解に対しても説得力があるような理由づけをいかに展開できるかが肝心だろう。

琉球大学法科大学院